

いま甦る、貞山堀の護岸石積み！

平成 28 年 10 月 29 日（土）仙台市教育委員会

【遺跡名】貞山堀（ていざんぼり）

【所在地】仙台市宮城野区蒲生地内

【調査原因】蒲生北部土地区画整理事業に伴う調査

【調査期間】平成 28 年 6 月 27 日～11 月 30 日（予定）

【調査主体】仙台市教育委員会

【調査担当】仙台市教育委員会文化財課・柳吉田建設

(1)「貞山堀」の歴史

貞山堀は 17 世紀初めに伊達政宗により開削された名取川と阿武隈川をつなぐ「木更川」と、明治時代に名取川と七北田川をつなぐ「沼田川」と、そして今回、発掘調査を行った、**釜淵川と七北田川をつなぐ「舟入堀」**の三つの運河の総称です。

舟入堀の開削は寛文～延宝年間（1660～1680）とされ、同時に北蒲生地区には「**蒲生御蔵**」が置かれ、**鶴巻一若竹間**には「**舟入堀**」が開削されました。

明治 20 年代には舟入堀と七北田川が繋がれ、陸の木更川や新堀と共に**釜淵川**や**沼田川**が繋がれ、陸の七北田川は昭和 42 年から開始された仙台港の建設工事に伴い、堀の北側が失われ、昭和 50 年代には残る堀も埋められて公園となりました。

(2) これまでわかっていること

平成 27 年度に行なった貞山堀の「**舟入堀**」と蒲生御蔵跡の発掘調査では、舟入堀跡の護岸で高さ約 1.5m の石積みによる**護岸石積み**を確認しました。また御蔵跡では、大きなゴミ穴から 100 点を越える木の板に**繋ぎ**した「**木更**」が出土しました。木更の一端を繋ぎしたところ、人名や量さや容量の単位、その他、「**志田**」や「**志田**」といった東北の郡名や村名らしきものが書かれていました。

このことから、木更は北上川や阿武隈川等の舟運によりこの地に運ばれてきた米などの物資に付けられていた荷れや木更であり、年代は不明ですが、かつての物資の流通や蒲生地区が果たしてきた役割を知る上で貴重な資料となりました。



北蒲生地区の貞山堀（舟入堀） 昭和 27 年 aerial 撮影



蒲生御蔵跡から出土した木更

(3) 見つかった石積みについて

御蔵は区画整理に伴って設置される埋設管や、都市計画道路の部分を対象として実施しました。調査した場所は、舟入堀への入り口に造られた南北 2 か所の護岸石積みと、堀の土手部分の 9 か所です。ここでは護岸石積みについて説明します。

①舟入堀跡南岸の石積み（1区）

舟入堀跡の南岸の石積みは、長さ約 15m の長さで確認しました。石積みの上と下では積み方が異なっており、造られた時期に違いがあります。【改修された石積み】

もも上に積み重ねた石は失われていますが、残りが長い部分の石積みの高さは 1.7m あり、傾斜は約 60°～70°とやや急です。積み方をみると、一部に「**舟入堀**」の手法がみられます。使用した石は安山岩とみられる固い石材を使用しており、全体にやや小振りな石を割った面を正面に向け、周りはデンプンで粗く打ち欠く加工がみられます。石積み全体の裏側には、積み石を加工した跡に出た腐材が裏打ちとして入れられています。

【古い石積み】

下の石積みは、長方形や台形に成形した凝灰岩質の切石を積んだ積層なもので、最も下の根石から 3 段から 1 段分のみが残っています。積んだ石の層はまちまちですが、1 段ごとに高さを揃えた「**市積**」です。傾斜は 40°～50°と上の石積みと比較してかなり緩いものです。根石の下には沈下防止のために、凝灰岩を砕いた石が敷かれています。石積み全体の形状を見ると、西に入り込む舟入堀に向かって急に曲がっていますが、敷か所に向を付けながら曲がっている可能性があり、また古い石積みの南端は、改修された上の石積みが高さで土手側へ曲がり始めるのに対し、さらに南へ延びています。

【石積みの年代】

以上の特徴から、丁寧に加工された石材による市積の古い石積みについては**近世以前**であるのに対し、改修された新しい石積みは、南端に認められる時期とされる層に属し、江戸時代以降の時期により、**安山岩**を積み重ねたものと推定されます。また改修後の石積みは、さらに上半部と下半部では積み方に若干の違いが認められることから、舟入堀跡の石積みは、改修に当たっての時期が明確されたとみられます。

②舟入堀跡北岸の石積み（2区）

【石積みの特徴】

最も残りの良い場所での高さは 2.4m あります。石積みの傾斜は 30°～40°で、南岸の改修後の石積みと比較しても緩やかです。積石は断面を正面に向けられる特徴は南岸石積みと同じですが、逆さの短い石材を使用し、積みどいうよりは、「**敷く**」といった感じを受けます。また根石の下には角材を横に渡し、太い丸太杭で石積みが崩れないように固定しているのが特徴です。現時点で石組みの裏側の様子については不明です。

【石積みの年代】

積み方が南岸よりも顕著な層に属することから、**改修された年代は近世以降**と考えられ、さらに上下での積み方に明確な差が認められることから、南岸石積み同様、現代にいたるまでの間に何度も修復されたとみられます。



舟入堀跡と蒲生御蔵跡（左の写真を拡大）

【图6】2016年琵琶湖现场付近 2016.8/28 撮影小川



【図5】 今回の発掘現場付近 2010.10/8 小川撮影



七、县时教育委员会

【図7】昭和40年代の仙台北港の計画図

【図9】想像図の基になった明治初期の古地図



【图1】宣城唐道场遗址·指定文化财地图



【図2】仙台市蒲生北部被災地市街地復興土地区画整理事業設計図（仙台市HPより）



【図3】仙台区面整理日よりNo34 2016.10/28号より